

Q

除染土壌を公共工事に使わないで

おのの 大野 洋子 議員



A

公共工事における再生資源化
除去土壌の利用は考えていない

問 環境省は除染土壌の再生利用を進めるため、法改正をする予定だったが、パブリックコメントに危険性を危惧する2854件の意見が寄せられたことから改正を見送った。しかし、引き続き改正の検討を行うとしており、再利用への不安は消えていない。

答 環境省が示す基本的考え方では、再生資材化した除去土壌の利用を公共事業等における盛土材等の構造基盤の部材に限定し、法令の基準に従って適切な

出も考えられ、大地震による道路の陥没や崩壊があれば、除染土がむき出しになることも懸念される。公共事業や農地造成に利用すべきではないと考えるが、市の見解は。



福島県内の除染土の集積場所

Q

これからの時代に必要な学力とは

もちだ やすあき 持田 靖明 議員



A

困難を乗り越えていく生きる力の育成をしてほしい

管理の下で限定的に利用することとしている。市が現在計画している工事では、盛土を必要とする工事はなく、公共工事における再生資源化した除去土壌の利用は考えていない。
国の実証事業が進行中であるため、現段階では除去土壌の安全性は判断できないと考えている。
◎その他の質問 新しい公共としての図書館の在り方

問 本市の子どもたちの学力の現状について。
答 小・中学校の国語科、算数・数学科で、全国平均同等のレベルまで伸びてきた。少しでも「できた」や「分かった」という充実感を持てるように、今後さらに努力していきたい。
問 これまでの学力向上に向けた取組と成果について。
答 学習支援員の配置、放課後のびのび算数教室や土曜学習会、学び合い学習等を推進してきた。埼玉県学力・学習状況調査では、学年が上がるほど学力の伸びが県の平均を上回ってきており、特に上位層及び下位層に安定した伸びが見られる。

問 これからの時代を生き抜く子どもたちに求められる学力について。
答 自ら課題を見つけて、自ら考えて、自ら学んで、そして自ら判断して自らの責任を持って行動するという「生きる力」を育成してほしいと考えている。
問 教育系ICT環境整備の現状について。
答 高速通信ネットワーク環境の整備は、本年11月中の終了を予定している。児童・生徒への1人1台の学習用端末の年度内整備を目指し、早期予算化に向けて調整を進めている。

